

地域活動 紹介①

「グリーンメゾン諏訪・歌の輪サークル」

手探りで発足してから5年の歳月が経ちました。

月1回の例会が現在では2回になり、「歌ごえの広場」として定着しています。近隣の参加者も増える一方で、集会室も狭く感じ始めています。

暮らしに潤いを運び、肉声の持つ力「発声」からは「歌う」そして「対話」が生まれ、普段意識しなかった内臓が働き、足の爪先から頭のとっぺんまでポカポカと元気の源があふれてくるから不思議です。

ネットでパッパッと瞬時に情報源がせまって、文字と文字で通じ合う利便性と多様化にも慣れた時代に「人と人」が出会う場所は、自らを歳を数える老いた「独り」とせず、病とも闘い共に地域で歌う力や、仲間の思いやりに気づき、日々の暮らしの発想を変えられることにも気づかされました。

「歌の輪」がさらに健康につながる広場として交わり、深まっています。 代表 石橋



地域活動 紹介②

「カフェ ゆめーぬ」

ブリリア多摩ニュータウンB棟1階にある「カフェゆめーぬ」は、多摩草むらの会が業務委託を受け運営を行うレストランです。普段は障がいのある方を含む計10名のスタッフが働いていて、障がいのある方の自立支援の役割も担っています。

お店はガラス張りで開放感にあふれ、各テーブルには季節の花が飾られとても明るい雰囲気です。ブリリアに住まれている方に限らず、地域の方が集える場所として、小さな子どものいる家族から高齢者の方まで、幅広い年齢層の方に利用されています。



バラエティーに富んだメニューの他、地場野菜や、障がい者の方が作っているパンなども店内で販売されています。また、4月中旬から秋頃にかけて、目の前で噴水を眺められるテラス席を用意しており、ペットも一緒に利用することができます。いろんな地域、様々な年齢層の方々のご来店をお待ちしております。

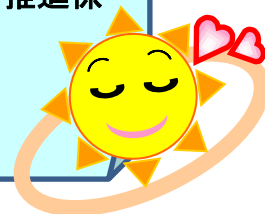
ゆめーぬ 連絡先：042-313-7462



事務局：(社福) 多摩市社会福祉協議会 地域福祉推進課 まちづくり推進係

多摩市関戸4-72 ヴィータ・コミュニネ7階

多摩ボランティア・市民活動支援センター内 ☎373-5616



発行：馬引沢・諏訪

地域福祉推進委員会

事務局：(社)多摩市社会福祉協議会

☎ 373-5616

発行日：平成 27 年 6 月 20 日

ささえ愛

第 4 号

馬引沢・諏訪 地域福祉推進委員会だより

災害時、あなたの備えは十分ですか？

～集合住宅の防災について講演が開催されました～

東日本大震災の時に集合住宅では何が起きていたのか、どんな備えが必要だったのか？

平成27年2月1日（日）永山公民館ベルブホールで、「多摩市社会福祉協議会 地域福祉普及啓発講座」が開催されました。タイトルは「東日本大震災から学ぶ集合住宅の防災とコミュニティ」。マンションコミュニティ研究会代表「廣田信子」氏を講師に迎え、実際の事例を交えた講演をしていただきました。

「多摩市社会福祉協議会
地域福祉普及啓発講座」

今回は、馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会が、多摩市全域の住民を対象に企画し開催した講座であり、これは多摩市初の試みでした。また、受付・司会進行等の役割のすべてを当委員会の世話人が担いました。当日は、102人も参加者が集まりました。



講演の内容

《発災時》スーパーからは商品がなくなる！日頃からの備えが大切！

《発災後の注意点》出来過ぎた防災マニュアルはいざというときに機能しない可能性も…

《今からできること》地域全体に顔見知りがいなくても、隣人を知っていることだけでも重要！

《まとめ》

いざというときに隣人同士が負担を感じず、さりげなく気配りや情報を伝え合える関係を様々な手法で構築する必要があります。また、防災活動は、防災の力を向上させるだけでなく、「コミュニティ行事」ともなります。集合住宅の防災力向上のためには、日常のコミュニティづくりがとても重要です。

《馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会 前委員長 山田氏まとめ》

○災害を他人事と考えてはいけない

○災害に対して私たちは備えておかなければならない

○災害に備えるには地域の助け合いが第一



新委員長の挨拶



およそ3年ほど前に、私は初めて地域福祉推進委員会に出席するようになりました。当然ながらはじめは何も分からず、ただ周囲を見渡していましたが、次第に少々疑問を抱くようになりました。「そもそも、この委員会の目的や意義とは何なんだろう？」

私は、進むべき方向が分からない状況にもどかしさを感じていたのですが、おそらく参加していた皆さんも、少なからず同じように感じていたように思います。

伊東委員長のバンド演奏風景（永山フェスにて）



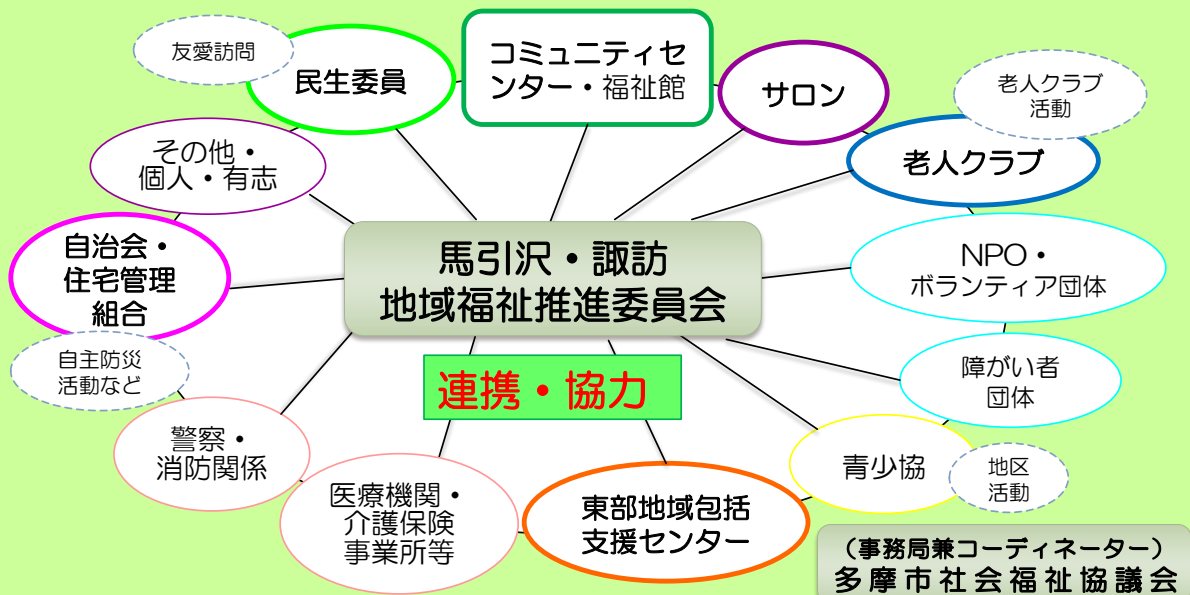
しかし昨年辺りからでしょうか、グループワークや講座など、今まで取り組んできた経験などをもとに少しずつ委員会の雰囲気が変わってきました。誰かから押し付けられるのではなく、私たち自身が悩みながら進んできたことが、結果として良かったのではないのでしょうか。

ところで、皆さんは「福祉」という言葉の意味をご存知でしょうか？「福祉」と聞くとすぐに、障がいをお持ちの方や、高齢者、子どものことを連想しがちですが、「福祉」の本来の意味は「幸福」だそうです。それも、「社会の構成員に等しくもたらされるべき幸福」を意味します。自分自身を含め、すべての人々が対象なのです。このことを意識したとき、地域福祉推進委員会の存在もまた、より意義のあるものになるのではと考えています。

一人ひとりの思いを持ち寄って、みんなの笑顔につなげて行けるような委員会になれば嬉しいですね。皆さんからのご協力、ご提案もお待ちしていますので、よろしくお願い致します。

馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会 委員長 伊東 伸浩（諏訪四丁目自治会長）

地域福祉推進委員会ってなに？



地域福祉推進委員会は、行政や公的な制度では補いきれない地域の問題（消費者被害、孤独死、防災・防犯、認知症の問題…）の解決を目指し、情報共有・意見交換を行っています。様々な人や団体と連携・協力をしながら、地域住民の方々が中心となり、企画・運営しています。そして、身近な地域の支え合いを進めながら、地域力を向上させ、「誰もが安心して暮らせるまち」を目指しています。

おひとりでの参加も大歓迎です。興味のある方は、お気軽に事務局までご連絡ください。

地域福祉推進委員会の活動について

～今までの主な活動のご紹介～

1. 地域の現状や最新の福祉関連情報を共有しています

年間6回の委員会が開催され、毎回参加団体より活動状況の報告があり、地域の現状を共有しています。多摩市社協、東部地域包括支援センターや民生・児童委員等からは、最新の福祉情報を提供しています。

また、地域をさらによく知り、連携を深めることを目的として、平成26年度より地域発見事業「わが街再発見」を始めました。この事業は、地域の団体、施設、お店等を紹介するもので、毎回新しい発見があり、地域の絆を強めることが出来ています。

「わが街再発見」(タマラボ
- 諏訪名店街内カフェ)



「防災まち歩き」
～障がい者団体も参加～



2. 地域防災力を高める活動をしています

委員会発足1年後に東日本大震災が発生しました。その経験を学んで、地域の防災力を高めるための活動を継続して実施しています。

また、地域防災普及啓発講座を数回実施し、講座後にはワークショップを行うことで、災害時の地域課題を共有しました。平成23年度には、「まち歩き」(馬引沢コース、諏訪4丁目コース)で、災害時の地域課題を把握しました。

3. 地域見守り体制の整備を進めています

多摩市社協の「諏訪支部」で作成したサポートマップ(一人暮らし高齢者の見守りをするためのマップ)を地域福祉推進委員会が引きつぎ、障がい者等も見守りの対象に含めたサポートマップを作成し、更新作業をしています。

また、馬引沢・諏訪地区で進んだ活動をしている「馬引沢団地ボランティアクラブ」の見守り体制や、馬引沢自治会の「災害時要援護者支援体制」がつけられる過程が、委員会で報告されました。そのことで、他地域は今後の支援体制づくりの参考にすることができるようになりました。

「ウォーキング」
～横山の道から黒川へ～



「わが街再発見」(多摩消防署見学)



寄席の会の開催

